

# 埼臨技だより



発行所 公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会 〒330-0072 さいたま市浦和区領家7-14-7  
TEL 048 (824) 4077 FAX 048 (824) 4095 URL:<http://www.sairingi.com/>  
携帯URL:<http://www.sairingi.com/keitai/index.html> Twitter : @sairingi

## 埼玉県による立入検査を終えて

11月10日(火)、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第27条第1項の規定に基づく埼玉県による立入検査が行われました。

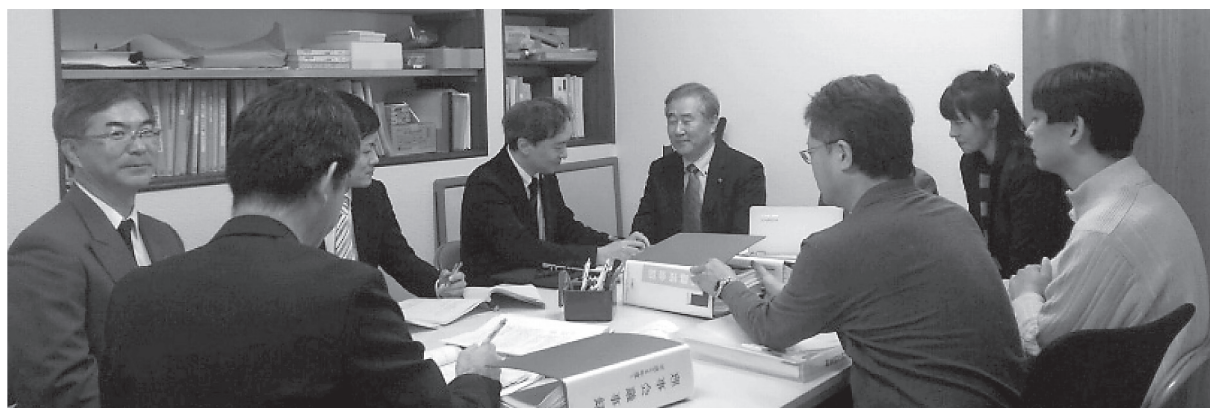
公益法人に移行後、初年度は1～3月の3ヵ月間と短かったので、1年を通して活動した平成26年度の活動について調査が行われました。当日は埼玉県保健医療部医療整備課から2名の職員の方が埼臨技事務所に来られました。埼臨技は、神山副会長、細谷監事、山下主任事務員、後藤事務員、わたくし会計部長の松岡の5名で対応しました。

立ち入り検査は午前10時から始まり、お昼休みをはさんで夕方まで行われました。指定された必要書類をあらかじめ用意しておき、書類の確認をしながら不明点、疑問点などを質疑応答していく形式で行われました。

挨拶の後、早速検査が開始され、法人運営及び各事業についての質疑応答に神山副会長が対応し、各事業の財務状況については私、松岡が対応しました。緊張してガチガチになって財務についての応答をしている私の机の反対側では、的確にかつ滑らかな口調で神山副会長が質疑応答をしており、この違いは経験の違いかと思いましたが、それだけでは片づけられない何かを感じている自分がいました。

重点的に確認されたことは、公益法人として公益性が十分に確保出来ているか。また、公益法人運営についてのガバナンスがあるのか。財務状況に問題ないか。であったように感じました。

検査の講評では、大きな指摘事項はありませんでした。特に私が管轄している会計部門でも指摘事項がなかった理由は、当会監事である細谷税理士や島村副会長の適切な助言および、事務職員の正確な帳票管理が背景にあることを実感しました。日々自分たちがルーチンワークの合間や仕事が



埼玉県保健医療部医療整備課 丸山主幹(中央)と中野主事(中央左)より説明を受ける津田会長





“全国 検査と健康展”では、超音波検査の説明と乳がんの触診体験を担当させていただきました。胎児模型の超音波では若いお母さんや子供だけでなく、孫がいるような世代の方々にも興味を持っていただくことができました。また、乳腺超音波で解剖や画像の見え方を分かりやすく説明するのが難しいと思う一方で、先輩技師さんの説明を聞いて私自身も非常に勉強になりました。貴重な体験をさせていただき、本当にありがとうございました。

(川口市立医療センター 角田 真璃)



当日は血管年齢測定を担当しました。来場者の皆様への検査説明やその他の検査の案内をする中で「まだまだ学ぶことが多いな」と感じました。また技師会活動に参加出来た事により、他院の方々と交流のきっかけとなりました。学生の頃、実習でお世話になった方に久しぶりに会えたり、初めて会う方々に他院の様子を聞いたり、とても刺激になりました。このような機会を大切に、これからも参加させていただけたらと思います。ありがとうございました。

(埼玉県済生会川口総合病院 南雲 涼太)



今回、全国 検査健康展に実務委員として参加させていただき、私は「血管年齢測定」を担当しました。血管年齢が実年齢より低く出た方も高く出た方も、この検査に興味を持って結果説明に耳を傾けてくださったのでとても嬉しかったです。このような地域のイベントをきっかけに、市民の皆様健康や検査について興味を持っていただけたら嬉しく思います。とても楽しく、貴重な経験になりました。機会があればまたぜひ参加したいと思います。ありがとうございました。

(さいたま市立病院 関根 有梨)



今回、私は骨密度測定を担当しました。予想以上に多くの方が来てくださり、長い行列ができるほどでした。測定した骨年齢をみて、喜ぶ人や、落ち込む人など様々いましたが、みなさん自分の結果に興味を持ち真剣に説明を聞いている姿が印象的でした。また、地域の方々と触れ合える良い機会となり、多くの方々と接したことで新たに吸収できたこともたくさんありました。このイベントを通して、検査というものを身近に感じてもらい、臨床検査技師という職業を多くの方々に認知していただきたいと思いました。

(蕨市立病院 高橋 味佑)



**ご参加いただいた皆様、おつかれ様でした!**

## 埼臨技 新入会員向け研修会開催される

去る11月5日(木)に大宮ソニックシティ906号室で「埼臨技 新入会員向け研修会」が開催されました。これは日臨技の入会促進対策の一環として各都道府県技師会に委託された事業になり、埼玉県では初めての開催となりました。本研修会の目的は前回の埼臨技だよりにて既報のとおりですので割愛しますが、多くの方に来ていただけるよう日臨技や埼臨技の組織や事業に焦点を合した企画だけでなく、新人・若手の技師さんのこれからの業務に役立つような講演を埼臨技学術部のみなさまにお願いし、当日まで準備してまいりました。当日は、一般会員、賛助会員、未入会の方あわせて38名の方にご参加いただくことができました。参加された会員の中には研究班の研修会に参加されていない方も受講されており、研修会には参加したことは無いが、技師会に関心を持たれている方がかなりいるのだと感じました。研修会の内容としては、前半に日臨技の仕組み、活動、生涯教育制度、会員補償制度について岡田副会長から日臨技制作のDVDの上映を交えて講演いただき、津田会長からは、日臨技と埼臨技の違いについて講演いただきました。後半部分には、埼臨技学術部の鳥山理事に血液検査について医師や看護師から検査結果について問い合わせがあった際の対応について実際の事例と検査データを示しながら講演いただきました。山口部長からは、生化学検査における検査データの読み方・考え方についてポイントを押さえたわかりやすい内容で講演いただきました。武関理事からは、輸血検査についての血液型検査の基本手技から亜型について、また事例を挙げながら輸血副作用とHLA検査について基礎から専門的と多岐にわたる内容をコンパクトに講演いただきました。参加者からは、“今後の業務にいかすことが出来る内容盛り沢山の研修会だった”、“日臨技・埼臨技の各種事業・教育などが解り、賛助会員として技師会との繋がりに役立つ内容だった”など企画側にとって嬉しい意見をたくさんいただきました。ボリュームのある研修会となってしまう、予定終了時間をオーバーしてしまい、反省する点もありました。次年度の研修会では、今回の経験を生かしてより良い新入会員向け研修会を企画していきたいと思います。

(文責：事業部 濱本)



### 埼臨技事務所の年末・年始休暇について

平成27年12月28日(月)～平成28年1月4日(月)

上記期間、事務所はお休みになります。



## 研修内容・感想など

首都圏支部・関甲信支部合同一般検査研修会が今年度は埼玉県が主催となり、埼玉医科大学にて行われた。「異型細胞の検出感度を上げる」をメインテーマとし、1日目は4名の講師に講演していただいた。まず、普段一般検査ではみられない細胞診のパパニコロウ染色の視点から見る異型細胞について山崎氏に、小型異型細胞検出のポイントについて猪浦氏に、尿路上皮癌の診療の実際と題して腎盂癌や膀胱癌の術式については、小山医師に映像を交えてご講演していただいた。また日臨技の講習として糸球体型赤血球と非糸球体型赤血球の鑑別について宿谷氏に説明していただいた。講義が終わった後は、飯能のホテルにて意見交換会とスライドセミナーが行われ、参加者同士で親睦を深めた。



2日目は「血球類」、「円柱類」、「上皮細胞類」、「異型細胞類」、「中皮細胞・その他」、「パパニコロウ染色・S染色」の各セクションに分かれて、各自標本スライドを鏡検していただいた。

今回初めて関甲信の実習の主催を経験し、反省点なども多々あったが、とても充実した2日間であった。  
(文責：竹山梨枝子)

## テーマ 免疫検査とCRPについて ～CRPの構造と役割・CRP測定試薬の特徴を知る～

主催 血清検査研究班

実施日時：平成27年10月16日 19時00分～21時00分

会場：大宮ソニックシティ 601号室 点数：専門教科ー20点

講師：村野 俊夫（株式会社LSIメディエンス）

参加人数：会員41名 賛助会員1名

出席した研究班班員：齊藤雅一 庄司和春 佐野悦子 相坂由里子 鈴木淳子 大島まり子

## 研修内容・感想など

今回は、村野氏にCRPについての講演をしていただいた。CRP (C-reactive protein) は、1930年Tillet & Francisにより発見され、C多糖体と沈降反応を起こす分子量約105,000の5量体である。

CRPは、関節リウマチ、肺結核、悪性腫瘍、リウマチ熱、細菌感染症、妊娠や出産などに基づく急性の組織傷害に際して血中に増加するが、脳炎、ウイルス性感染症等の感染症では発熱してもCRPがほとんど上昇しないため、CRPが高ければ体内で炎症が起こっていることを意味する。CRPが低くても体内に異常が無いとは限らないために感染・非感染の鑑別には不向きである。さらに、臓器特異性・疾患特異性もないので従来CRPは非特異的な検査であるとされている。したがって、頻繁に使用されているCRPは炎症マーカーとしては、非特異的な性質を考慮した上での使い分けが必要と説明を受けた。

今回の講演では2002年に新規の敗血症マーカーとして発見されたプレセプシンの迅速測定キットの説明をうけた。これは、先日の自動化学会で紹介された機器に搭載されており、レセプシンは感染症、敗血症、SIRSの鑑別が可能になり、敗血症性ショック診断に有用とのことである。しかし、敗血症に対する検討数が少ないため、菌種の検討等に考慮する余地が在りそうである。  
(文責：大島まり子)

**テーマ 分子標的治療薬と病理検査室の関わり**

主催 病理検査・細胞検査研究班合同

実施日時：平成27年11月4日 19時00分～21時00分

会 場：浦和コミュニティーセンター 第13集会室

点数：専門教科－20点

講 演 1：セルブロック活用術

講 師：鶴岡 慎吾 (JCHO埼玉メディカルセンター)

講 演 2：ALK融合遺伝子陽性肺癌の細胞学的特徴

講 師：宮田 佳奈 (帝京大学医学部附属病院)

講 演 3：ALK阻害剤クリゾチニブの概要と分子標的治療薬の開発

講 師：関谷 政嗣 (ファイザー株式会社)

司 会：山崎 泰樹 (獨協医科大学越谷病院)

渡邊 俊宏 (上尾中央医科グループ 上尾中央臨床検査研究所)

参加人数：会員66名 賛助会員6名 非会員1名

出席した研究班班員：

病理検査研究班：渡邊俊宏 岡村卓哉 森田繁 三鍋慎也 細沼佑介 関口久男  
高橋俊介 沼上秀博細胞検査研究班：山崎泰樹 大澤久美子 三升畑菜穂 鶴岡慎吾 宮内優太  
大木麻衣 船津靖亮

研修内容・感想など

近年のがん医療は、分子標的薬を用いた治療が一般的に行われるようになってきた。分子標的薬を使用するにあたっては、安全性や経済性の面から薬理効果を事前に判定することが必要である。検査には病理検体が主に用いられるため、必然的に我々が関与する機会が増えている。このような背景から、講演1では鶴岡氏に、細胞診の液状検体からのセルブロックの活用術を解説していただいた。セルブロック作製法にはいくつかの方法が考案されており、操作の簡便性や技術的間差、形態的観察に異差がある。また、サンプル量によって方法が限られる場合もあり、検体ごとに適した方法を選択することが重要であると述べられた。講演2ではALK陽性症例をレトロスペクティブに調査した結果、細胞像からある程度の推定が可能であることを宮田氏よりお話しいただいた。講演3では製薬会社の分子標的治療薬の開発経緯をお話ししていただき、将来的な展望を鑑みることができた。

今後がん治療で使用される分子標的治療薬は質・量とも増加していくことは明らかであり、病理に関わる業務はさらに拡大していくことは間違いない。分子標的治療の未来に対応すべく、今後とも幅広い情報収集を怠らないようにしていきたい。

**【お知らせ】**

今年度より、病理検査研究班のページに、「*Check !! 次回研修会のKeyword !!*」を掲載しています。参加される方には事前に研修会の内容を予習していただき、当日の聴講に活用していただくことを考えたシステムです。ぜひご覧ください。

(文責：沼上秀博)

**テーマ 当直に活かせる細菌染色 ～グラム染色をマスターしよう！～**

主催 公衆衛生検査研究班

実施日時：平成27年11月8日 13時00分～16時00分

会 場：東武医学技術専門学校 講義室及び実習室

点数：専門教科－20点

講 師：庭野 清司 (日水製薬株式会社)

参加人数：会員14名 非会員44名 (医師4名、学生40名)

出席した研究班班員：菊地孝司 穴原賢治 阿保一茂 長崎広美 鈴木勤 立塚梓  
研修内容・感想など

感染症対策の観点から日当直時にその対応に迫られる機会も少なくはないため、今回の研修会では日頃、微生物検査を担当していない技師を対象にグラム染色の実習を開催した。前半は実習で使用するフェイバーGを中心としたグラム染色について講義を行い、染色の原理からコツまで教えていただいた。実習では、会員にはあらかじめスライドグラスに塗抹・火炎固定済の標本（尿・喀痰・カルチャーボトル・膿・便など）のグラム染色と鏡検を行った。学生には学校の先生方の協力も得ながら、検体の塗抹から鏡検までを各々で行ってもらった。フェイバーGは煩雑な操作である媒染&脱色が同時にでき、ステップ数が他のグラム染色法に比べ少ないのでグラム染色に不慣れでもきれいに染め分けられていた。

さらに会員には喀痰のチールネルゼン染色をデモで行い、各々に鏡検してもらった。ガフキー陽性の検体を用意していたが、普段見慣れていない技師にとっては抗酸菌を見つけるのが困難であるという印象を受けた。今後は鏡検が不慣れな技師を対象にした研修会も展開していきたいら良いと感じた。

今回の研修会には技師のみでなく医師の参加もあり、グラム染色の重要性を改めて感じた。グラム染色の結果で抗菌薬の選択が左右されることもあるため、グラム染色をする機会が日当直時のみの技師にとって、今回の研修会は有用であったと思われる。

(文責：立塚 梓)



**平成27年度**  
**公益社団法人埼玉県臨床検査技師会**  
**第8回 理事会議事録**

日 時：平成27年11月12日（木）19時00分より

場 所：埼臨技事務所

さいたま市浦和区領家7-14-7

議 題：Ⅰ. 行動報告 Ⅱ. 報告事項

Ⅲ. 承認事項 Ⅳ. 議題

出 席：(理事)津田 神山 島村 矢作 小山

奈良 長岡 伊藤 猪浦 松岡

小島 濱本 藤井 長澤 神嶋

山口 武関 野瀬

(監事)遠藤 細谷

本日の理事会の出席者は20名であった。理事の出席者は18名で、現在数20名の過半数に達しており、定款第33条第1項の決議を行うに必要な要件を満たしていることを確認した。

議長は、定款第32条第1項より、津田聡一郎会長が務めることとなった。

**Ⅰ. 行動報告** (平成27年10月8日～平成27年11月11日)

10月8日(木)平成27年度公益社団法人第7回理事会：

津田、島村、岡田、矢作、小山、

奈良、猪浦、長岡、伊藤、松岡、濱本、藤井、長澤、神嶋、山口、鳥山、武関、野瀬、遠藤

10月16日(金)第44回埼玉県医学検査学会第12回  
実行委員会：岡田、長岡

10月17・18日(土・日)第52回関甲信支部学会：  
津田、神山、奈良、伊藤、山口、遠藤

10月17日(土)深谷福祉健康まつり及び検査と健康  
展事前準備：  
濱本、藤井、長澤、神嶋

10月18日(日)一都八県会長会議及び部門代表者  
会議：津田

10月18日(日)関甲信支部連絡会議：  
神山、津田

10月21日(水)わらび健康まつり第4回実行委員  
会：藤井

10月22日(木)第45回埼玉県医学検査学会第2回  
実行委員会：

猪浦、長岡、長澤、武関

10月23日(金)第59回埼玉県公衆衛生大会：  
津田、神山、藤井、長岡

10月25日(日)深谷市福祉健康まつり：  
津田、神山、濱本、長澤、神嶋

10月26日(月)埼臨技事務所にて会計作業：松岡

10月28日(水)熊谷保健所へ診療所開設届・廃止  
届提出：濱本



- 10月29日(木)第1回編集委員会：  
神山、鳥山、武関
- 10月31日(土)全国検査と健康展事前準備：  
濱本、藤井
- 11月1日(日)全国検査と健康展：  
津田、島村、矢作、濱本、藤井、  
長澤、神嶋、伊藤、遠藤
- 11月4日(水)埼臨技事務所にて会計作業：小島
- 11月4日(水)川口保健所へ診療所開設届・廃止  
届提出：藤井
- 11月5日(木)埼臨技新入会員向け研修会：  
津田、神山、矢作、濱本、藤井、  
奈良、山口、鳥山、武関
- 11月7日(土)秩父セミナーにて挨拶：津田
- 11月8日(日)糖尿病無料相談会(浦和会場)：  
長澤、遠藤
- 11月10日(火)埼玉県の法人監査：  
津田、神山、矢作、小山、松岡、  
小島、細谷

## II. 報告事項

### 1 事務局

- 1) 10月23日、第59回埼玉県公衆衛生大会に受賞者と共に津田会長と神山副会長が出席した。
- 2) 11月3日、埼臨技名誉会員である小崎繁昭氏が旭日小綬章を受章した。
- 3) 11月10日、埼玉県の法人監査が実施された。
- 4) 第55回全国国保地域医療学会より礼状を頂いた。
- 5) 日臨技永年職務奨励表彰推薦候補者について

### 2 総務部

- 1) 「埼臨技だより」第438号、11月15日発行予定

### 3 事業部

- 1) 10月21日、わらび健康まつり第4回実行委員会に出席した。
- 2) 10月25日、深谷市福祉健康まつりにて無料血糖測定、医師による健康相談を実施した。
- 3) 11月1日、全国検査と健康展(埼玉会場)を実施した。
- 4) 11月5日、埼臨技新入会員向け研修会を実施した。
- 5) 第2回検査室運営研修会について

### 4 学術部

- 1) 第2回編集委員会を開催した。
- 2) 輸血検査研究班研修会用の平成28年度分譲渡血申請を行った

### 5 精度保証部

- 1) 特になし

### 6 会計部

- 1) 平成27年度正会員費10名分50,000円、入金金10名分10,000円、合計60,000円の入金があった。
- 2) 生涯教育推進研修会助成金2研修会分(50,000円×2)100,000円の入金があった。
- 3) 極東製薬工業より擬似便使用料276,074円の入金があった。
- 4) 埼臨技だより第433号印刷代141,826円、学会特集号の仕分け、発送費(一部)43,282円を石井印刷に支払った。

### 7 精度管理委員会

- 1) 特になし

### 8 一都八県会長会議

- 1) 特になし

### 9 日臨技関甲信支部

- 1) 10月18日、関甲信支部連絡会議が開催された。

### 10 日臨技

- 1) 特になし

### 11 第44回埼玉県医学検査学会

- 1) 10月16日、第12回実行委員会を開催した。

### 12 第45回埼玉県医学検査学会

- 1) 10月22日、第2回実行委員会を開催した。

## III. 承認事項

### 1 事務局

- 1) 会員動向(平成27年度分)  
平成27年11月1日現在  
会員数 2,580名  
(新入会員 224名[平成26年度会員数2,441名])  
賛助会員 77社[平成26年度 79社]

承認された

- 2) 埼臨技事務所の年末・年始休暇について  
12月28日～1月4日を年末・年始休暇とすることで承認された。

- 3) 日臨技各賞受賞者の推薦について  
候補者を選定し関甲信支部へ推薦することが承認された。

### 2 総務部

- 1) 特になし

### 3 事業部

- 1) 深谷市福祉健康まつりの決算について  
承認された
- 2) 全国検査と健康展の決算について  
承認された

4 学術部

1) 特になし

5 精度保証部

1) 特になし

6 会計部

1) 特になし

7 精度管理委員会

1) 特になし

IV. 議題

1 学会特集号の捕冊化について

山口学術部長より、次年度より学会特集号を捕冊として扱いたいとの発言があった。これを受け理事会審議の結果、出席理事全会一致で承認された。

以上で本日の議事を終了し、議長は協力を謝して閉会とした。

## 求人案内

○さいたま市立病院

採用条件：臨時職員（パート）

連絡先：048-873-4111 内線2272

検査科 手塚

○医療法人 大宮シテッククリニック

採用条件：正職員 臨時職員（パート）

連絡先：048-645-1256 本部長 星野

○社会福祉法人恩賜財団母子愛育会

総合母子保健センター 愛育病院

採用条件：非常勤職員（常勤採用予定あり）

連絡先：03-6453-7300 管理課 大塚

給与、社会保険等、詳細につきましては掲載してある連絡先にてご確認をお願いいたします。

## あ と が き 師 走

この埼臨技だよりがお手元に届く頃は44回学会も終わり、学会発表された方、学会を運営された方々も成功にホッ！としている頃かと思います。本当にお疲れ様でした。

学会も終わり良いお年を！と言いたいところですが、この12月は様々な技師会活動が裏の舞台で行われております。来年度の研究班活動計画と予算案、研究班員の交代に伴う体制づくり、終わったばかりの学会ですが来年度45回学会の予算案、賀詞交歓会の最終調整、埼玉県医師会精度管理報告書の原稿提出、各種忘年会の出席などなど・・・

臨床検査技師があたふたと走り回る月でもあります。師走だね～

(猪浦 記)

